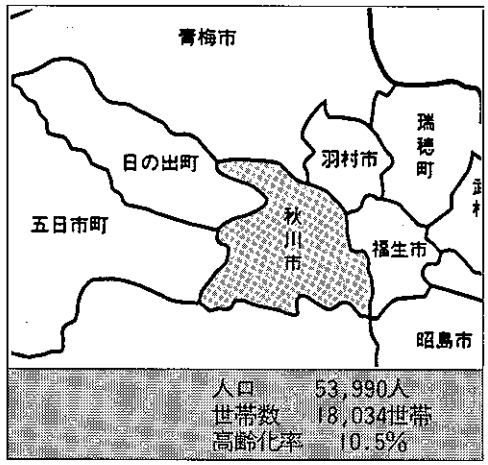
秋川市
社会福祉協議会



1 安心して暮らせるまちづくり

●地域と社協の特色

地域の特色

秋川市と五日市町は平成7(1995)年9月1日に合併し、あきる野市が誕生した。両地区の社会福祉協議会は平成8(1996)年4月1日の合併を目指して協議中である。山紫水明の山間部と都市化が進みつつある丘陵部に、誰もが生き生きと安心して暮らせるまちづくりを目指す。

社協職員数

54名（うち一般業務職員17名／経営事業職員35名／派遣職員2名）
（うち非常勤職員41名）

※一般業務職員＝経営事業職員以外の職員
経営事業職員＝委託事業、施設に従事する職員

組織構成

- 事務局長
  - 総務部門
    - 総務係（常勤2名、非常勤1名）
  - 事業部門
    - ふれあいのまちづくり係（常勤1名、非常勤3名）
    - ボランティア係（常勤1名、非常勤4名）
    - 有償家事援助係（常勤1名、非常勤3名）
  - 施設部門
    - こすもす福祉作業所（常勤1名、非常勤7名）
    - 萩野センター［高齢者在宅ＳＣ］（常勤2名、非常勤11名）
    - 開戸センター［高齢者在宅ＳＣ］（常勤2名、非常勤12名）
- 派遣職員
  - ひばり訓練所1名
  - 市役所研修1名

主な事業展開

区　分	事業名・内容	85	86	87	88	89	90	※91	92	93	94	95
地域福祉活動計画	活動計画の策定											
相談事業	心配ごと相談		(72年より実施)									
	福祉よろず相談の開設											
	専門相談の実施											
住民参加型在宅福祉サービス	有償家事援助サービス											
	食事サービス											
	移送サービス											
公的福祉サービスの受託・実施	高齢者在宅サービスセンター											
	ホームヘルパーの養成講座											
	友愛訪問事業		(73年より実施)									
調査・研究事業	ひとり暮らし高齢者実態調査											
小地域福祉活動	福祉委員会制度											
ボランティア活動の推進	ボランティアセンターの設置											
	ボラントピアの指定											
	青少年ボランティア体験講座											
そ の 他	アクティビティサービス事業											

※縦の実線はふれまち指定年度

2 ボランティアセンターと小地域活動は車の両輪 ——•指定の経緯とねらい

秋川市は、昭和62（1987）年より「ボラントピア事業」の指定を受け、市民の協力を得ながら、在宅家事援助サービス、食事サービス、移送サービス、青少年福祉教育の推進など活発なボランティア活動を展開してきた。その拠点としてボランティアセンターを設置し、活動の援助と市民のニーズの把握、問題の解決にあたった。

今後さらに広く細かく対応するためには、センター拠点方式と小地域活動方式の両立が不可欠と判断、全町内会に「ふれあい福祉委員会」を設けた。おかげで、地域問題の早期発見、相談窓口への相談、関係機関との連絡調整、ケースワーカーやボランティアの派遣など、総合的な対応が図れるようになった。

3 きめ細かく多彩に展開する諸活動 ——•事業の特色

全町内会に「ふれあい福祉委員会」を設置

町内会・自治会（平均500世帯）を単位とした小地域ごとにふれあい福祉委員会を設置し、5～10名の福祉委員を委嘱。福祉制度の紹介や相談、援助活動、見守り活動や声かけ活動を行ないながら高齢者や障害者の状況を把握するとともに、問題が発生した場合には福祉センター相談員等と連絡調整をしながら総合的な対応を図る仕組みである。

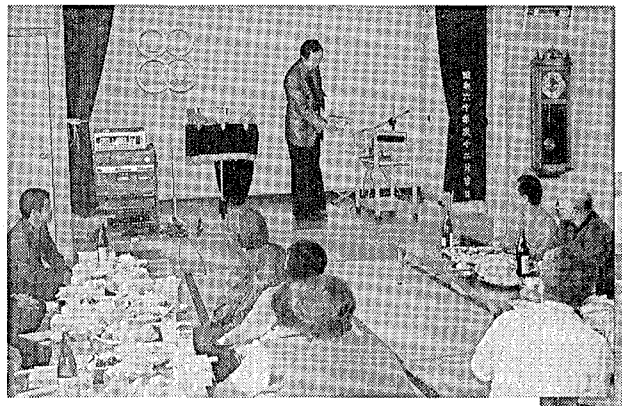
福祉委員には、町内会役員や福祉活動に熱心な市民などがあたっている。発足から3年、町内会単位で「敬老の集い」が開催されたほか、町内会、老人クラブ、婦人コミュニティ委員との連携もスムーズになってきた。

演芸奉仕団の旗揚げ

福祉委員会の設置と同時に力を入れたのが、演芸ボランティアの育成である。各地で開かれる敬老の集いなどを支援するため、演芸部門のボランティアグループを結成した。幸いにして、アコーデオンを得意とする方とマジック教室の指導者がボランティア登録されていたため、この二人を中心に秋川演芸奉仕団を旗揚げした。「一芸生かして世に奉仕」のキャッチフレーズの下に歌謡ショー、ギター、琴、フラダンスなど顔ぶれは多彩。各地区の集いに引っ張りだこで、今ではなくてはならない存在となった。団員も全くの無料奉仕ながら、磨き上げてきた芸を披露できることが世のため人のためになることを無上の喜びとしている。

福祉の出前と予防福祉

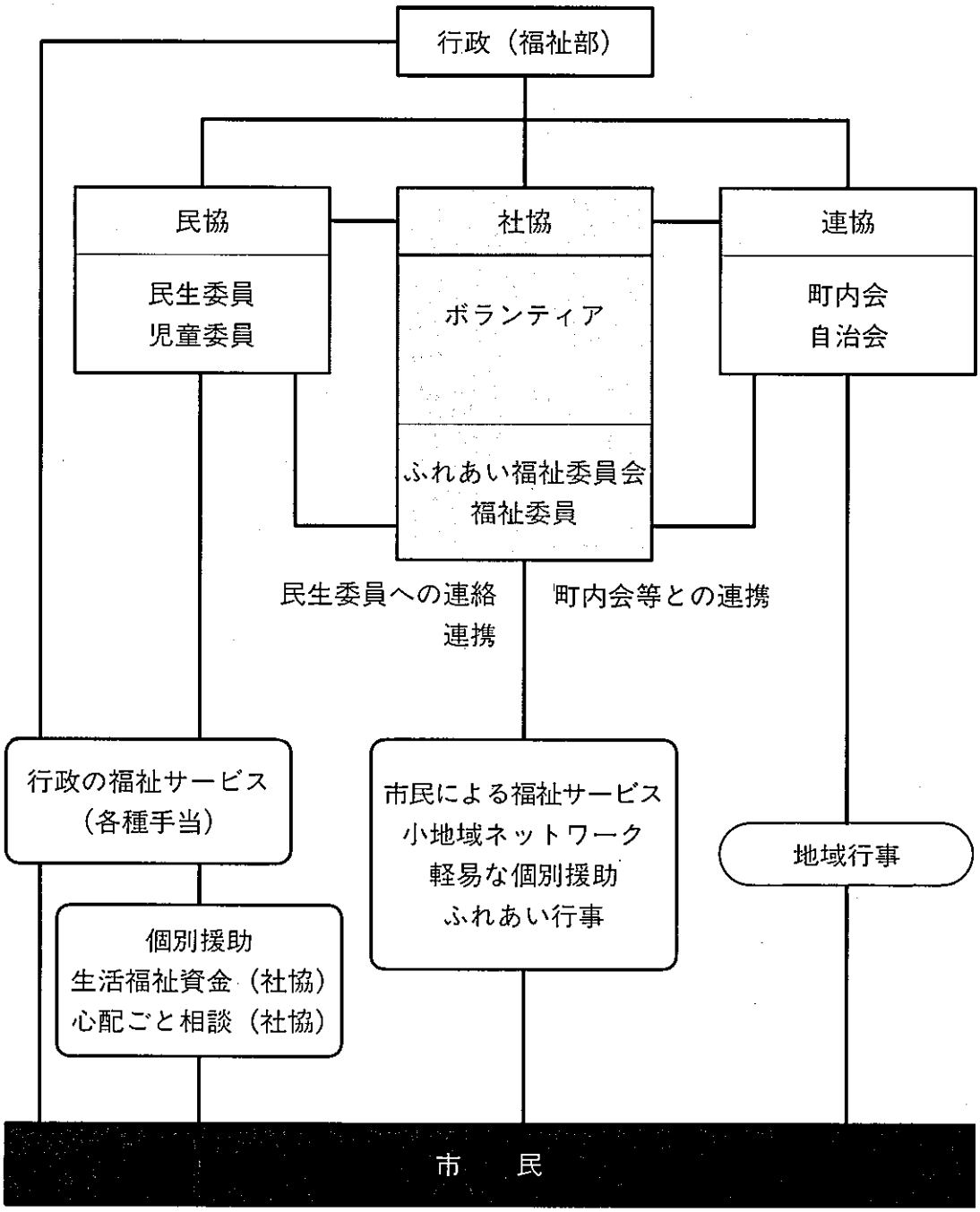
各地区で開かれる集いや行事は、「福祉の出前」であり「予防福祉」であると位置付けている。地区ごとに高齢者名簿を作成して集いに積極的に参加するよう呼びかけることで、福祉委員との交流が深まり、見回り活動や訪問活動にもつながる。まさに福祉の出前である。また、高齢者在宅デイサービスセンターが4か所という秋川市にとって昼間に高齢者が集う場所が限られてしまうため、福祉委員会が主催する行事は有効な予防福祉にもなる。



秋川演芸奉仕団によるマジック

子供たちとの交流も大好評

《『ふれあいのまちづくり事業』フローチャート》



4 うつ病による休職から復帰まで ～ある福祉委員の取り組み～

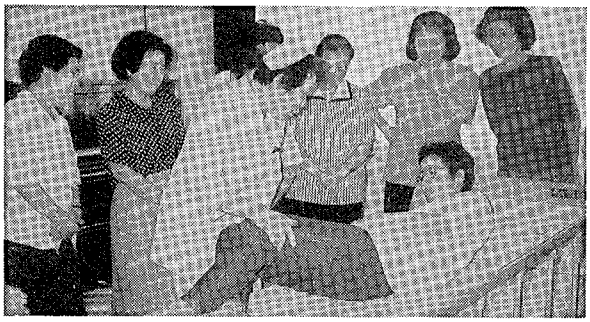
●ある事例から

ある日、T福祉委員から、担当区域に住むA氏について相談があった。A氏は42歳、妻と小学生の子供が二人いる。仕事のストレスからうつ病で入院し、休職して3か月が経っている。T福祉委員はたまたま同じ会社に勤めていた関係もあって、休職期限1年が終わる前に復職させたいと社協に協力を求められる。

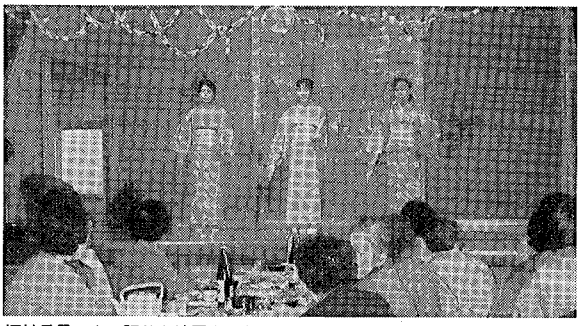
T福祉委員としては、退院させて福祉施設などでボランティア活動をさせながらリハビリを試みたいという。医師と協議した結果、T福祉委員が付きっきりでケアできるならとの条件付きで退院できた。A氏に会うと、服薬のためか目の焦点が定まらず、ろれつも回らない。T福祉委員の意向に添って知的障害者の通所作業所を紹介し、通所生と一緒にショッピングバッグ作りなどの軽作業をしてもらう。周囲に励まされ毎日通うようになるが、相変わらず表情の変化は見られない。

退院して2か月後にA氏の実父が他界した。葬儀のため帰省し、再び戻ってきたころからわずかながら表情の変化が見られ自己判断力も戻ってきた。翌月には義母を亡くし悲しみに追い討ちをかけられるなど大変厳しい家庭の状況だったが、T福祉委員は献身的に関わり、奥さんや子供を励まし続けた。

やがて、重度身体障害者施設でのボランティアや施設行事の手伝いにも参加、汗を流すことで熟睡できるようになり、目に見えて快方に向かう。休職10か月目にして服薬の量も減り、焦点も定まり口調もはっきりしてきた。T福祉委員の会社との粘り強い交渉が実り、休職期限前に復職を果たした。現在は休職前と同じ笑顔が戻り、元気で会社に通い、家庭も円満である。



福祉委員研修で介護教室を開催



福祉委員による踊りも披露された

コーディネーターのある一日

8：30
移送サービスボランティアの1さんが、ボランティアセンターに移送車のキーを取りに来る。相談のあった中途障害のBさん（64歳）の病院送迎を担当して下さっている。センターの朝は、こうしたボランティアの活動から始まる。

↓

9：30
淵上福祉委員会より、敬老の集いに演芸奉仕団を派遣して欲しい旨の連絡あり、さっそく団長の花井氏に電話し了解をとる。

↓

10：30
76歳の女性から電話で「夫に先立たれひとり暮らしが辛い。施設を紹介してほしい」との相談。市のケースワーカーとも協議の上、老人ホームのショートステイを勧めることにした。あわせて保健婦が訪問し、ヘルパーの派遣が適当かどうかを調査することになった。

↓

11：00
マタニティブルーの相談が入る。出産後うつ状態になり、家事、育児ができず生活面の支援が欲しいと女性の実母から依頼。保健所に保健婦と心理相談員の派遣を要請した。（後日保健婦と協議した上で、有償家事援助サービス協力員を派遣することを決定）

↓

13：00
富士見台福祉委員会より福祉委員を対象にした老人ホームでの介護体験の申し込み依頼がある。老人ホームより快諾を得る。福祉委員の要望により、当日会場までの送迎は市の福祉バスを利用することになった。

↓

15：00
うつ病になり、1年間休職していたA氏が、福祉委員のT氏に付き添われて来訪。T氏の懸命の努力で1年ぶりに職場復帰ができた。ボランティアとして受け入れてくれたこすもす福祉作業所と社協事務局にお礼の挨拶にうかがったとのこと。「ひとりの不幸も見逃さない」を目標に、真正面から地域課題に取り組んだT氏の努力に心から感謝と拍手を贈りたい。

5 重要性が増す福祉委員の果たす役割 ――●今後の課題と展望

成果

①地域福祉活動コーディネーターを「ふれあいのまちづくり係」として配置。正規職員２名、非常勤職員３名(内相談員２名）によってふれまち事業を企画、推進する。地域課題の把握、小地域活動の推進、行政・保健所・福祉施設等とのネットワークづくり、総合的な相談活動などが実現した。

②相談員の配置によって相談窓口が明確になり、相談の件数も増加した。また、各機関との連携が密になり、総合的に問題解決が図れるようになった。

③小地域活動によって全町内会に福祉委員を配置することができ、よりきめ細かい問題点の把握とその解決が図られるようになった。

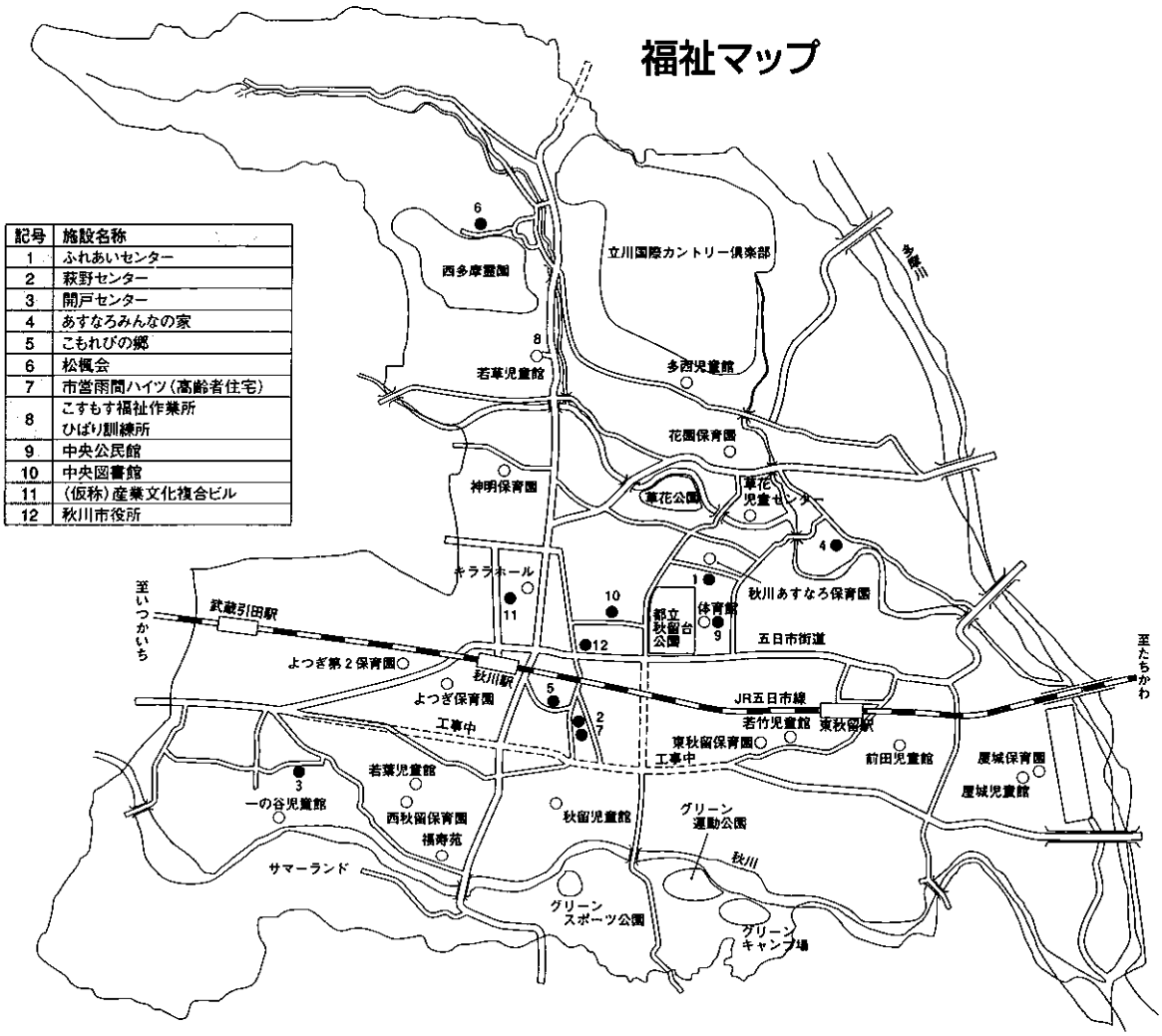
④モデル事業では、熟年世代のボランティアを育成し、ひとり暮らしの老人の組織化、介護者の会の結成などによって、当事者や準当事者の自立と活性化に役立った。

⑤施設の地域福祉活動啓発事業により、福祉委員の研修や市民の家庭介護教室、ボランティア体験教室の受け入れなどが行なわれ、施設の地域化が図れた。

今後の展望

全町内会に福祉委員を配置することで、小地域活動の展開を可能にし、多くの成果をあげることができた。今後、五日市町社協との合併によって、両地域への小地域活動と、地域特性を生かした活動の展開が求められている。新しい市における福祉委員の研修も充実させていかなければならない。

高齢化率10.5%の秋川市も、今後急速な高齢化が予測され、在宅福祉の充実が急がれている。小地域での福祉委員の活動に対する市民の期待も大きく、その役割は益々重要性を増してきたといえる。



社協だより「ふれあい秋川」より

広がるまごころのネットワーク

ふれあい福祉委員会 各地で活発に

子どもからお年寄りまで住み良いまちに

地域福祉の相談役として社協や行政と地域を結ぶ「ふれあい福祉委員会」が発足してまる1年。このほど、秋川消防署の協力で福祉委員のみなさんを対象に「救急処置講習会」が開かれました＝写真。自治会内でいざという事態が起きた時に配慮したものです。福祉委員のみなさんは「今後も研修を重ね、地域のために活動したい」と決意を新たにしています。

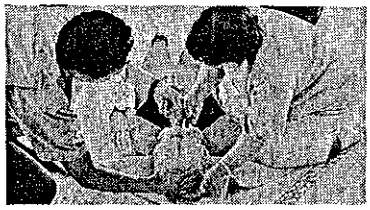
●小宮　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、地域との連携を大切に、7月下旬の盆踊り、8月の平井川でのとうろう流しなど町内会行事に積極的に参加し、福祉委員会の存在をアピールしていきます。とうろう流しは戦没者の霊を供養する小宮町内会で昔から行われてきた行事です。こうした地域の年中行事を守り伝える中で、地域の一体感が生まれ、地域福祉の基盤も出来上がっていくものです。

小宮の福祉委員は、小林吉一さん、田中敏一さん、竹内清吉さん、武田テル子さん、竹内ミチさん、藤田智枝さんの6人です。

●市営秋留野ハイツ　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、「救急処置講習会」を自治会でも開くことになり、秋川消防署の協力で6月19日に実施しました。屋間実施したことから女性の参加が目立ち、「勤めに出ている夫にもぜひ知っておいてほしい」との声が多く、同消防署との相談で7月中の土曜日の夜にもう一度開くことになりました。詳しい日程は決まり次第、自治会を通してお知らせするそうです。



市営秋留野ハイツの福祉委員は、塩野芳子さん、嶋田睦夫さん、菅沢房子さん、伊東二三恵さん、赤石光一さん、村上勝彦さんの6人です。

●小川　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、町内会や子ども会役員の人たちなどとネットワークを結び、小川地区が子どもからお年寄りまで、今よりもっと住み良いまちになるように努力しています。同地区では毎年行われている取り組みに、子どもたちが力を合わせて廃品回収を行い、その収益でお年寄りにメッセージを添えた花をプレゼントする活動があり、先ほど、市の青少年善行表彰を受賞しました。福祉委員会も子ども会の役員に加わり、共に取り組む中で今回の表彰の喜びを分かち合ったそうです。

小川の福祉委員は、森田弥一さん、古山忠良さん、森田新司さん、向深沢アヤ子さん、内山郁子さん、堀部徹さん、斉藤文子さんの7人です。

●野辺　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、4月に町内の65歳以上の人を対象に「ふれあい会食会」を開きました。67人のお年寄りが参加し、ボランティアのまごころのお弁当に舌つづみを打っていました。この会食会は、町内会、福祉委員会、社協が力を合わせて実施したものです。参加者からは「ぜひまた開いて欲しい」との声が多く、秋頃をめどに、より充実した内容で開催したいと関係者一同はハリキッています。

野辺の福祉委員は、青村勉さん、藤原正太郎さん、村野エツ子さん、乙津文子さん、高木伍一さん、平井久光さん、丸山一雄さん、小野瑛子さん、矢崎タツ子さん、小山政子さん、新川加鶴子さん、宮田スミエさんの12人です。

●大塚　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、ひとり暮らしのお年寄りの家へ福祉委員のみんなで訪問、鉢植えの花をプレゼントしました。

大塚では花鉢をプレゼント

「自分の息子が来てくれたようだ」と涙を流して喜んでくれるお年寄りに、胸が熱くなる場面も何度かありました。

人と人とのふれあいの大切さ、あらためて実感したり、今まで知らなかった所にひとり暮らしのお年寄りがいることも分かったなど大きな成果になりました。

大塚の福祉委員は、牧大吉さん、中嶌登喜男さん、榊原智明さん、鳥崎国子さん、久保田孝子さん、岩野アツ子さん、岡本俊子さんの7人です。

●折立　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、地域の人たちに「身近な相談を持ちかけてください」と広く呼びかけています。取り組みについては、推進員が各地区の情報を集め、折立に合った催しを現在検討中。実りのあるものにしたい、と頭をひねっています。

折立の福祉委員は、小山実さん、田中多一さん、田中タツさん、田中久光さん、斉藤久代さん、横田京子さんの6人です。

●二宮　ふれあい福祉委員会

同福祉委員会では、町内会と合同で町内の75歳以上の方を対象にした敬老会を7月11日午後1時から二宮地区会館で開きます。「なごやかなひと時にしよう」と役員一丸となって準備に取り組んでいます。また、身近な相談をいつも受け付けています。

二宮の福祉委員は、石川正明さん、小澤八郎さん、岸峰元登さん、春日靖男さん、小峰登さん、坂本昌平さん、春日利子さん、岸峰美和子さん、青山惠光さん、吉野千恵子さん、高木フサ子さん、山下道代さん、井上慶男さん、石川孝一さん、山本幸男さんの15人です。

9月から11月にかけて各地区の「ふれあい福祉委員会」では町内会などの協力をいただき、お年寄りに喜んでもらえる催しを活発に展開してきました。「子どもたちからお年寄りまでが住み良いまちに」を合言葉に、準備から当日の運営までに汗を流す福祉委員たちのまごころの単仕に、招かれたお年寄りたちからは、「また来年もお願いします」など多くの感謝の声があがっていました。発足から1年半、町内会・自治会ごとにつくられた「ふれあい福祉委員会」は、地域の福祉の相談役、社協や行政とのパイプ役としてすっかり定着してきたようです。福祉のまちへ息吹きが満ちる活動の一部を報告します。

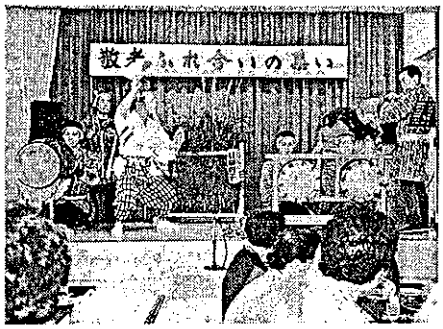
子どもたちの手作りカードをめくり喜ぶお年寄りたち（西ケ谷戸）

「いつまでもお元気で」と子どもたちからメッセージ（西ケ谷戸）

ふれあい福祉委員会が活発な催し

まごころの花満開

グラフ特集



地元引田ばやしの熱演に大拍手（上引田）

趣向あふれる集いに感謝の声

瀬戸岡ふれあい福祉委員会は、町内に住む72歳以上のお年寄り150人に、「いかがお過ごしですか」と敬老会への案内状を持って回りました。会には70人のお年寄りを含む120人が出席。お年寄りたちは昔話に花を咲かせ、地元の大正琴やカラオケの会の人たちの舞台を心ゆくまで楽しんでいました。ふれあい福祉推進員を務める豊田庸子さんは「本当に開催してよかった。来年もまたお願いしますの言葉が励みになります」と声を弾ませていました。

渕上ふれあい福祉委員会は、「高齢者」温もり、若人